穴掘り機

取扱説明書

HG-DZ50S　HG-DZ71S

もくじ

ご使用の前に

はじめに	2
安全にお使いいただくために	3
安全ラベル	6
主要諸元	7
各部の名称	8
組立	9

使い方

運転前の点検	11
運転操作のしかた	13

点検のしかた

点検・整備のしかた	20
長期間使用しないとき	24
故障と思ったら	25
お客様ご相談窓口	26

はじめに

このたびは穴掘り機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。 安全に正しくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みください。

安全上のご注意

※お使いになる人や他の人への危害・財産への損害を未然に防ぐため、必ずお守りいただくことを説明しています。
※誤った取扱をした場合に生じる危険とその程度を次の区分で説明しています。

●表示と意味をよく理解してから、本文をお読みください。
●お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見ることができる所に、必ず保管してください。
●すべて安全に関する内容です、必ずお守りください。

⚠ 警告	⚠ 注意
誤った取扱をしたときに、死亡や重傷に結びつく可能性のあるもの。	誤った取扱をしたときに、軽傷または家屋・財産などの損害に結びつくもの。

取扱においてその行為を禁止します。

指示に基づく行為を強制します。

製品を長くご愛顧いただくために

取扱説明書に従った正しい取扱や定期点検、保守を行ってください。
注意事項に従わず何らかの損害・故障が発生した場合、保証の対象外となりますのでご注意ください。

安全にお使いいただくために

穴掘り機に係る安全事項

⚠ 警告

・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させないでください。
・換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
・回転部分のカバーを取り外して運転しないでください。
・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。
・改造、分解は絶対行わないでください。安全性・信頼性が低下したり故障の原因になります。 また、当社の保証サービスは一切受けられなくなります。
・当社が供給するドリル、アタッチメント以外は使用しないでください。
・指定された用途以外には使用しないでください。
・正しい操作を知らない人、子供、妊娠中の方には操作をさせないでください。
・未成年者の単独使用は禁止です。監督下で作業してください。
・または、操作のしかたをよく分からない成年者でも独自の使用はご遠慮ください。

・ご使用前にこの説明書をお読みになり取扱の注意事項をよくご理解の上ご使用ください。
・騒音から耳を守る為、適切な保護具を使用してください。
・ドリルビットは確実に取り付けられているか、先端工具に異常がないか確認してください。
・運転中は、排気ガスに十分注意してください。
・燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行って下さい。
・燃料をこぼさないように注意してくだい。 所定のレベルを超えて補給しないでください。
・燃料がこぼれた場合は、直ちにふき取ってください。
・燃料キャップは確実に締めてください。
・エンジンを始動するときは、周囲に人や動物がいないことを確認してください。
・始動前点検を実施してください。
・穴掘り機を保管、運搬するときは、先端工具を外すかカバーをかけてください。
・用途に合ったドリルビットをご使用ください。 地面用、氷用、穴あけ直径など。

安全にお使いいただくために

穴掘り機の作業に係る安全事項

⚠ 警告

・身体の調子が悪いとき、判断力に影響するような酒類、薬物を服用して使用しないでください。
回転部分に顔や手足を近づけないでください。
・ご使用時は、子ども、動物、ペットを近づけないようご注意下さい。
・夜間、悪天候時、霧の発生時など、視界が良くないときは使用しないでください。
・足元が滑りやすい、転倒しやすい場所では使用しないでください。
・燃料タンク内に燃料を入れたまま運搬、保管しないでください。
・ハンドルをしっかり握り、正しい姿勢で作業をしてください。 走るような操作はしないでください。

・装置から離れるときは、必ずエンジンを停止してください。
・危険を感じたり、予測される場合も、必ずエンジンをすぐに停止してください。
・作業中に異物に当たったり、異物が巻きついた場合には、速やかにエンジンを停止し、回転部が完全に停止してから異物を除去し、ドリルに異常がないか調べてください。異常があった場合には、完全に補修した後でなければ装置を再始動しないでください。
・電線やケーブルに触れると感電する恐れがあります。穴あけ作業の前に作業領域の点検をしておきます。

安全にお使いいただくために

穴掘り機に係る安全事項

⚠ 注意

・指定された用途以外には使用しないでください。

・燃料は潤滑油混合ガソリンを使って下さい。
・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
・給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。
・部品交換は、純正部品を使用してください。
・装置をご使用になる前に、エンジンの始動、停止の仕方を覚えてください。
・定期点検整備を行ってください。
・子供の手の届かない安全な場所に保管して下さい。

穴掘り機の作業に係る安全事項

⚠ 注意

・機械の稼働部分に絡まるような衣服は着用しないでください。
・エンジンがかかっている状態で本製品から離れないでください。

・すべりにくい靴、手袋、防塵マスク、安全ゴーグルなどの作業に適した服装を心掛けてください。
・装置を長時間保管するときは、取扱説明書にしたがって保管してください。

安全ラベル

可燃性液体・蒸気・ガス注意

爆発・火災の危険性があります
外部から熱・火花・火気を近づけないでください
十分な排気・換気を取ってください

高温注意

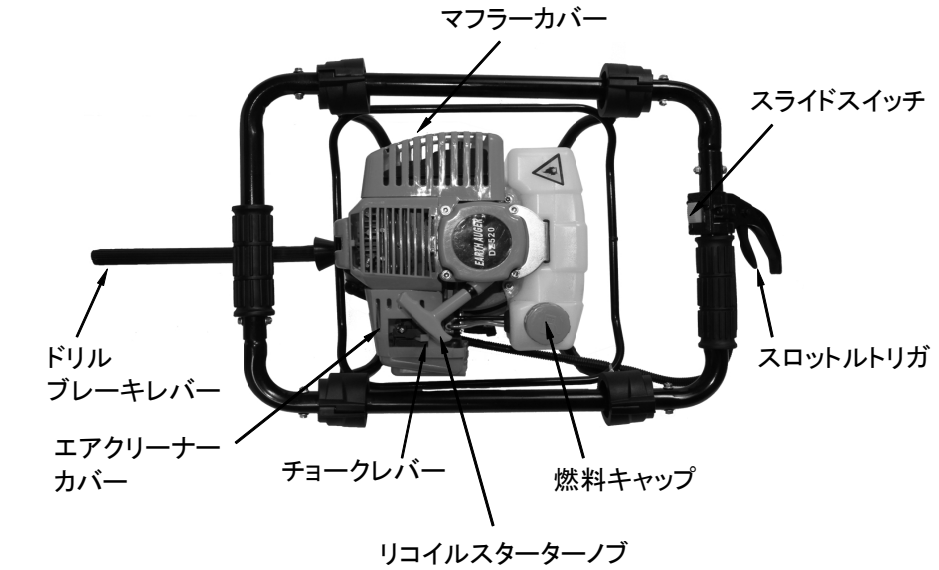
高温部で火傷をする恐れがあります
絶対にさわらないでください

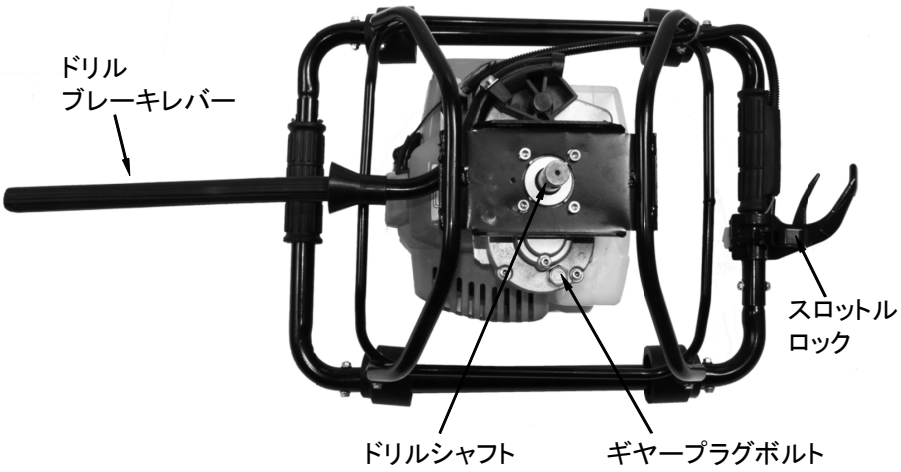
主要諸元

モデル名	HG-DZ50S	HG-DZ71S
型式	空冷2サイクル	
総排気量	49cc	73cc
シャフト径	Φ20mm	
推奨ドリルサイズ	Φ40mm～150mm	Φ40mm～300mm
燃料	混合ガソリン 25:1	
本体質量	10kg	
本体サイズ	520×410×380mm	

この仕様諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

各部の名称





写真はHG-DZ50S

組立

●梱包部品一覧表

念のため、各パーツが不足していないかのご確認をお願いいたします。
不足している場合は、お手数ですがハイガー産業株式会社までご連絡ください。

ドリルブレーキレバー

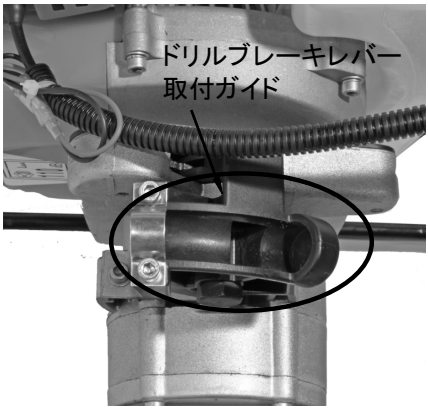
⚠ 注意

・説明書をよく読んで正しく取り付けてください。
・作業には工具を使用します。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行って下さい。

組立

●ドリルブレーキレバーの取付け

1.ドリルブレーキレバーを取付ガイドに合わせます。
2.クランプをドリルブレーキレバーにかぶせます。
3.ボルトを通し、ナットでしっかり固定します。



運転前の点検

●混合燃料の作り方

1.ガソリン、オイル、混合タンクを準備します。
・無鉛レギュラーガソリン
・2サイクル用オイル　JASO　JB
・混合タンク
2.混合比
25:1
例

ガソリン	2サイクルオイル
1ℓ	0.04ℓ
2ℓ	0.08ℓ
3ℓ	0.12ℓ
5ℓ	0.2ℓ

混合燃料の作り方例
①無鉛レギュラーガソリン1ℓ、2サイクル用オイル0.04ℓを準備します
②混合タンクに無鉛レギュラーガソリンを1ℓ入れます。
③2サイクル用オイルを0.04ℓ続けていれます。
④混合タンクのキャップをしっかり締め、混合タンクを振り、攪拌します。

⚠ 注意

・本体燃料タンクに、2サイクル用オイルだけを入れないでください。
・本体燃料タンクに4サイクル用オイルを入れないでください。

・混合燃料は、一度に使い切るだけ作ってください。
・弊社は、燃料の販売はしておりません。　必ず別途燃料をご準備ください。

運転前の点検

●燃料の点検・補充

燃料の量を点検し、不足している場合は補給します。

■燃料の給油
1.潤滑油混合ガソリン (25:1)を準備してください。
2.燃料キャップ面を上にして開けます。
3.潤滑油混合ガソリン (25:1)を少しづつこぼさないように給油してください。
4.給油が終わったら燃料キャップをしっかり閉めてください。

⚠ 警告

・エンジンが熱いうちは、給油しないでください。
・燃料が漏れたり、こぼれたままエンジンをかけないでください。
・運転時、給油時、喫煙など火気を発生させなでください。

・燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して、屋外の換気の良い場所で行って下さい。
・燃料をこぼさないように注意してくだい。 所定のレベルを超えて補給しないでください。
・燃料がこぼれた場合は、直ちにふき取ってください。
・燃料は、無鉛レギュラーガソリンと2サイクルエンジンオイルの混合燃料を使用してください。
・ガソリンだけで運転するとエンジンが焼き付きます。
・混合燃料は、一度に使い切るだけ作ってください。

⚠ 注意

・燃料キャップは確実に締めてください
・長期保管する場合は、燃料タンクの燃料を抜き取り、火気のないところに保管してください。
・給油中、燃料タンク内に雪や水が入らないように注意してください。

運転操作のしかた

●エンジンのかけ方

⚠ 警告

・燃料を補給した場所でエンジンを始動しないでください。
・換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。
・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので高温部に触れないでください。
・回転している部分の近くに手又は足を入れないでください。

・エンジン始動時、ドリルが回り始めることがあるので、ドリルブレーキを必ずかけてエンジンを始動してください。
・エンジンが始動したら、スロットルロックを解除し、ドリルブレーキも解除してください。
・しっかり本体を保持してください。
・平坦な場所で作業を行ってください。
・エンジン始動後、異常を感じたり、予測される場合はすぐにエンジンを停止してください。
・装置から離れるときは必ずエンジンを停止してください。
・少しの移動でもエンジンを停止し、ドリルブレーキをかけ、ハンドルを持って運搬してください。

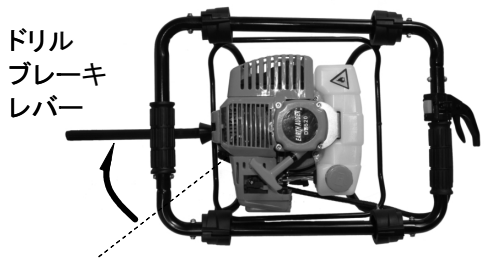
⚠ 注意

・エンジンを始動するときは、周囲に人や動物がいないことを確認してください。
しっかり本体を保持してください。

運転操作のしかた

1

ドリルブレーキをかけます。



スロットル各部の名称

2

スロットルロックをおさえながら、スロットルトリガーを強く握ります。

スロットルトリガー、スロットルロックの順で放します。スロットルトリガが始動位置で固定されます。

3

スライドスイッチを「START」に合わせます。

運転操作のしかた

4

チョークレバーを燃料タンクと反対の方向へ倒します。

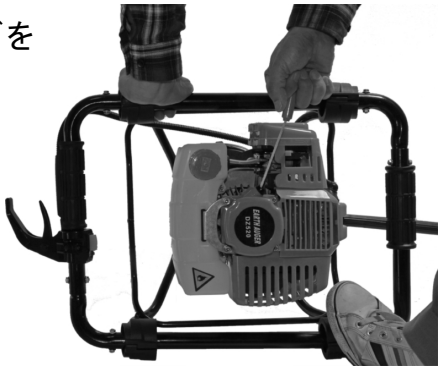
5

プライミングポンプを数回押してください。

6

リコイルスターターノブを数回強く引いてください。

まずノブを軽く引き、重く感じたところで一旦止め、ノブを一度戻してから勢いよく引くとエンジンがかかります。



運転操作のしかた

■エンジンがかかったら

1

チョークを燃料タンクの方向へ倒します。

エンジンが起動し運転状況を確認します。異常がなければ、チョークを「ON表示」にします。

2

アイドリング回転にします。

スロットルトリガを軽く握ります。スロットルロックが外れ、スロットルトリガが戻りエンジンがアイドリング回転になります。

3

本機を地面に立たせます。

ドリルの先端を地面につけて本機を立たせます。
ドリルブレーキレバーを位置Bに移動してドリルブレーキを解除します、

数回繰り返してもかからない場合は、チョークを「ON表示」の位置にし再度リコイルを引いてください。

運転操作のしかた

●エンジンの止め方

1.スロットルトリガを放し、エンジンをアイドルにします。
2.スライドスイッチを「STOP」にします。

■エンジンがかからないとき
1.スライドスイッチを「STOP」にします。
2.点火プラグキャップを外します。
3.点火プラグを外します。
4.リコイルスターターノブを数回引いて、シリンダ内を換気します。
5.点火プラグを取り付けます。
6.点火プラグキャップを取り付けます。
7.スライドスイッチを「START」にします。
8.チョークレバーを「ON」の位置にします。
9.リコイルスターターノブを数回強く引いてください。まずノブを軽く引き、重く感じたところで一旦止め、ノブを一度戻してから勢いよく引くとエンジンがかかります。

運転操作のしかた

●ドリル刃の取り付け

本体にドリルを取り付けます。

1.エンジンを停止します。
2.ドリルブレーキを掛けます。
3.ドリルをドリルシャフトに差し込みます。
4.ドリルシャフトの穴とドリル側の穴を合わせ、結合ピンを差し込みます。
5.結合ピンが抜けないように、割りピンを通し開きます。

※ドリル刃は、別途お買い求めください。

割りピンを
通し開きます。

●ドリルブレーキ

ドリルにブレーキをかけることができます。
・エンジン始動時
・穴掘り時、挟まったドリルを抜き出す時

■ドリルブレーキのかけ方
1.ブレーキレバーをAの位置にします。

ドリルが穴の障害物に挟まったとき、本体は反時計回りに回転し、ブレーキレバーが操作者の足に押し付けられ、Aの位置になりドリルにブレーキが掛かります。

■ドリルブレーキの解除
1.ブレーキレバーをBの位置にします。

運転操作のしかた

●穴あけ作業のしかた

1.エンジンをかけた後、しっかりハンドルを握り、下向きに押さえながら、穴掘りを始めます。
2.ドリルが10cm前後地面に入った後、ハンドルを強く押して、掘り下げます。
3.深掘時は、時々ドリルを引き上げ、廃土しながら徐々に堀下げて下さい。
4.穴掘り完了後、地中からドリルを引き上げ、エンジンを3秒前後回転させて、停止してください。

●挟まったドリルの取り外し

1.ドリルが挟まったら、すぐにエンジンを止めます。
2.ドリルブレーキをかけます。
ドリルブレーキレバーを位置Aにします。
3.本体を反時計方向に回しながら、本体を引き上げます。

●運搬、輸送について

本機を運搬するときは、次のことに注意してください。

⚠ 警告

・運搬時は必ずエンジンを停止してください。
・運搬する場合は、燃料もれによる火災を防止するため、燃料タンクから燃料を抜き取ってください。
・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。

⚠ 注意

・運搬中に本体が動かないように、ロープなどでしっかり固定してください。

点検整備のしかた

お買い求めいただきました製品を安全にご使用いただくために、定期的に点検を実施してください。

点　検　項　目	実施時期
燃　料　の　点　検	作業前
ギヤーグリースの点検	50時間毎
エアクリーナーの点検	作業前
点火プラグの点検・清掃	点検50時間毎
各部のネジの緩み点検	作業前
燃料系の点検・メンテナンス	長期保存の前

ご自身で点検、修理ができない場合は、ハイガー産業までご相談ください。

⚠ 警告

・安全を確保し作業を行って下さい。
・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめて下さい。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。
・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。

⚠ 注意

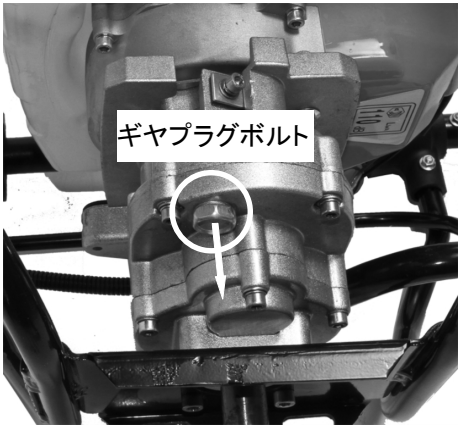
・作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行って下さい
・メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

点検整備のしかた

●ギヤーグリースの点検

グリース量を定期的に点検し、不足している場合は、注油してください。

■ギヤーグリースの注油
1.ギヤープラグボルトを外します。
2.ギヤープラグボルトにグリスが付着していない時、注油します。
3.5～10gのグリースを注油します。
4.ギヤープラグボルトを締めます。



点検整備のしかた

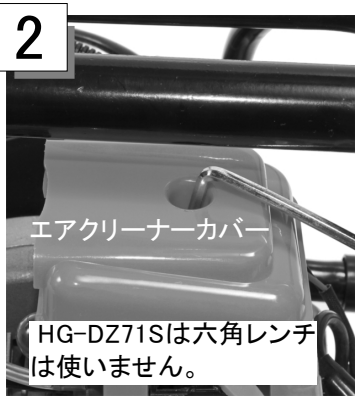
●エアクリーナーの清掃

エアフィルタの汚れを点検し、汚れがひどいときはよく洗います。
エレメントが目詰まりした状態になると、出力低下、始動困難になります。
時々掃除をしてください。

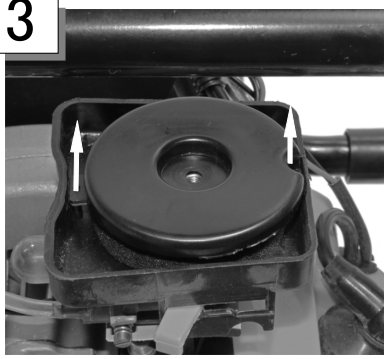
■点検手順
1.使用工具
六角レンチ(HG-DZ50S)
2.防振カバーを取り外します。
3.エアクリーナーカバー取付けネジを緩めます。
4.エアクリーナーカバーを取り外します。
5.エアフィルタの汚れがひどい場合は、中性洗剤入りの温湯で丁寧に洗い、よく乾燥させます。
5.取り外しと反対の手順で取り付けてください。

1

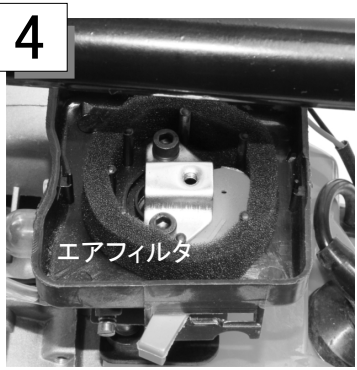
2



3



4

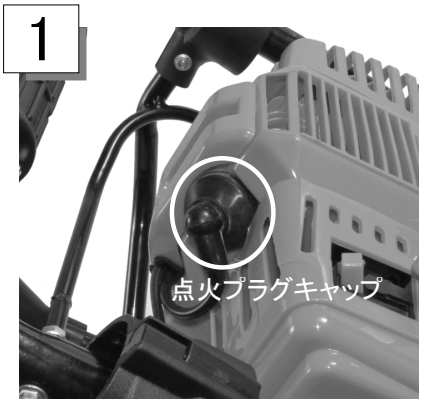


点検整備のしかた

●点火プラグの点検・清掃

点火プラグを外し、電極の点検・清掃を行います。

■点検のしかた
1.使用工具
プラグレンチ、ワイヤブラシ
2.点火プラグキャップを外します。
3.付属のソケットレンチで、点火プラグを取り外します。
4.電極の周辺にオイルや堆積物が付着している場合は、清掃してください。
5.電極間隔は0.6mm～0.7mmになるように調整してください。
6.点火プラグを取り付けます。
7.点火プラグキャップを取り付けます。



長期間使用しないとき

シーズンが終わりましたら、次の手入れを行い、保管してください

1.燃料タンクから燃料を抜いてください。
　エンジンをかけ、燃料切れで停止するまでまわし、キャブレター内の燃料を使い切ります。
余った燃料は、密封容器に入れ、冷暗所に保管し、1か月以内に使い切ってください。
2.スライドスイッチをSTOPにしてください。
3.点火プラグを外し、適量の2サイクルオイルをシリンダ内に入れてください。 リコイルロープを2～3回引いた後、ピストンが一番頂点になるところで止めます。
4.点火プラグを取り付けます。
5.点火プラグキャップは取付けないでください。
6.湿気やホコリが少なく、子供の手が届かない場所に保管してください

⚠ 警告

・安全を確保し作業を行って下さい。
・作業中にエンジンを始動するようなことは絶対にやめて下さい。また周囲に子供や動物が近づかないよう配慮をお願い致します。
・エンジン回転中及び停止後しばらくの間はエンジンやマフラーなどが熱くなっています。触れるとやけどすることがありますので注意してください。

⚠ 注意

・作業には工具を使用することがあります。必ず用途やサイズの合ったものを使用し自身や周囲の確認をしながら安全に作業を行って下さい
・メンテナンス終了後は汚れが付着しない場所かカバーなどをかぶせて保管ください。

故障と思ったら

●エンジンがかからない

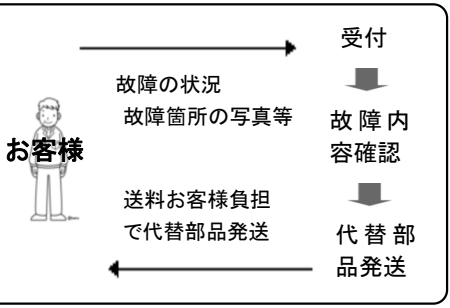
点火プラグに火花が出ていない	①スライドスイッチの不良 ②点火プラグ不良 ③点火プラグ・キャップ接続不良 ④イグニッションコイルの不良 ⑤イグニッションに関る配線不良	交換 交換 調整 交換 交換
キャブレターに燃料が来ていない	①燃料がはいっていない ③燃料ホースの詰まり、漏れ ④燃料タンク異物混入による詰まり	燃料を入れる ホース清掃、交換 清掃
エンジン内に燃料が来ていない	①キャブレータ詰まり	キャブレタ分解掃除

お客様ご相談窓口

まず、「故障と思ったら」を参考に、ご自身で点検してください。

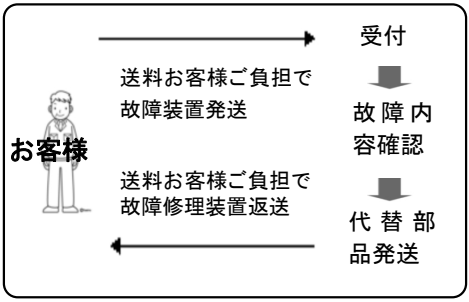
●故障部品をお客様で交換される場合

保証期間内は消耗品を除き壊れた部品は当社で保証します。
送料は全てお客様のご負担となります。



●故障品をメーカーで修理する場合

保証期間内の本体修理も無料で承ります。
その際に生じる往復の送料はお客様のご負担となります。



修理、部品に関するご相談

修理、部品を依頼される時は
下記の事項をご連絡ください。

① 故障の状況
② 型式
③ ご購入サイト、年月日
④ お名前、ご住所、電話番号

修理　使い方などのご連絡窓口

お問い合わせ窓口
TEL　0276-55-2275
FAX　0276-55-2276
メール support@haige.jp
住所　〒370-0503　群馬県邑楽郡
千代田町赤岩3072-3

ハイガー産業株式会社